

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 17 日現在

機関番号：32707

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520531

研究課題名 (和文) 思考力・自己表現力・問題解決能力育成の観点から見た言語教育プロセス
の日英比較研究課題名 (英文) Comparative Studies of Language Education Process in the UK and Japan
in terms of thinking, self-expression, and problem-solving ability.

研究代表者

羽井佐 昭彦 (HAISA AKIHIKO)

相模女子大学・学芸学部・教授

研究者番号：30285655

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：自己表現力、思考力、問題解決能力、言語教育、談話分析、日英比較
英国教育システム

1. 研究計画の概要

(1) 本研究の目的は、日本と英国の教育を思考力・自己表現力の観点から比較し、日本人の問題解決能力の向上につながる言語教育システムを構築・提案することである。

(2) 研究内容は、言語を重視し、ことばを鍛える教育で知られる英国の初等・中等教育における授業の談話分析を通して、いかに思考力・自己表現力が育成されているのかを考察することである。また日本における国語の授業の談話分析をすることで日英の比較を試みることである。

(3) 本研究の意義は、研究から得られた知見が、自ら考え、意見を伝え合う力を育てるうえでの手がかりとなることである。その力は様々な問題に対処する能力の基盤となるものであり、子どもの学ぶ力・生きる力のみならず、国際化社会を力強く生き抜いていく力にもつながるものである。その能力育成のためのシステム構築は、これからの日本の言語教育を考える上で極めて重要なことである。

2. 研究の進捗状況

(1) 英国のストラトフォード・アポン・エイボンに位置する幼稚園から小学校までの私立一貫校、及び公立の中高一貫校の2つの学校において、英語の授業の録画データを収集した。

(2) 英国において、GCSE (英国の一般中等教育修了試験)、A レベル (大学などへ進学する基準資格のための教育修了試験) などの

入試問題を収集し、英国の入試が思考力・自己表現力・問題解決能力の向上に及ぼす影響を分析するための資料を整えた。

(3) 英国において収集した授業録画データの転記作業を開始し、そのデータを元に英国の教室における教師と生徒のやり取りの談話分析を行った。分析方法は、教師の働きかけと生徒の応答に対するフィードバックにおいて特徴的なパターンを抽出し、その談話傾向を明らかにするというものである。その結果、積極的なやり取りを活性化するための働きかけ、思考力を鍛えるための意見構築のための質問やタスクの提供、意見を言いやすくするための土台作り、生徒が発言したくなるようなフィードバックなどの傾向を見出すことができた。

(4) 英国の研究協力校を訪問し、授業データ分析の中間報告を行った。また録画した授業の担当教員に対してインタビューをすることにより、教員の生徒に対する質問の意図、授業に対する姿勢、意識している試みなどについての調査を試みた。

(5) ウォーリック州教育委員会で GCSE の評価担当者へのインタビュー、転記作業を終了した。

(6) 神奈川県内にある日本の小学校を訪問し、小学3年生の国語の授業の録画データを収集した。

(7) 2010年度に、英国の研究協力校において、授業を通して得られた思考力・自己表現力を

育成する談話傾向についての最終報告をし、調査内容の検証を予定していたが、協力校の都合により3ヶ月延期して欲しいとの連絡があり、3ヶ月遅延のための出張旅費の2011年度への繰越申請を行った。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

前述のように、英国の研究協力校の事情により最終発表と調査内容の検証ができていないため、最終的な分析のまとめが途中段階である。また人を扱う研究であるため、日本における授業データ収集の候補校を見つけることに手間取り、その分析が遅れている状況である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 遅延している英国の協力校での最終報告と調査内容の検証を実施し、これまでの分析結果をまとめる。

(2) 日本において収集した授業録画データの転記作業と談話分析を早急に行い、日英比較の考察を行う。

(3) 日本国内の全国英語教育学会の全国大会において、これまでの成果を発表し、発表視聴者よりフィードバックを得る。

(4) これまでの成果をまとめ、最終報告書を作成し、日本における思考力・自己表現力・問題解決能力の向上につながる言語教育システム構築のための提案を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)